最優秀賞

竹やぶの中から・・・

葛城市立新庄中学校　２年　髙橋　菜緒

竹やぶの中にあったのは、きれいな小川でも、鳥たちがすむ楽園でもありませんでした。

私がこの景色を見たのは、小学校のときの帰り道でした。自然が好きだったので、通学路にある川や水路をのぞいては、なにか生き物がいないか探していました。ある時、家の近くの竹やぶの中をのぞいてみると、、、なんとゴミであふれていたのです。今まで通学路に落ちているゴミは見たことがあったけど、あまり気にしていませんでした。あまりのショックに、これはどうにかしなければならないと考えました。

その日から、ゴミを減らすにはどうしたらよいのか。何ができるのだろうか。ということを考えるようになりました。そこで気づいたのは、

「みんなのゴミに対する意識が低すぎる。」実際に、同学年の子がゴミを川に捨てているところを見ました。そのことがくやしくて、母に相談すると、

「そうやなぁ。それは個人に注意するんじゃなくて、企業にうったえかけることをしないかぎりは直らないと思うなぁ。」と言われました。でも、それは大人になってからすることだなと思ったので、今できることをしようと考えました。その日から、母と私でゴミを拾う日々が始まりました。家の近くにあるゴミを、トングで拾っていくのです。そこで、いちばん多く捨てられているゴミはタバコのすいがらと、飲み物の缶でした。飲み物の缶には、まだ飲みのこしが残っていることが多く、汚いなあと思いました。

この現実に国はなにか手を打たないのか！と思い、調べたこともありました。ゴミを捨てると罰金になる。という村の看板がありました。でも、実際にはゴミを捨てているところを誰かが見張っているわけでもないので、捨てているところで、

「罰金を払ってください。」と言って罰を下すのはとても難しいことなのです。だから、ゴミを捨てない意識を高めることが大切です。

どうして私がゴミ問題について考え続けてるかというと、ゴミは風の力によって川へ運ばれます。さらに川を下り、海へでるころには、プラスチックゴミだと、マイクロプラスチックという、小さな小さな粒になります。そしてそれを、プランクトンが摂取すると、それを魚が食べ、さらに大きな魚が食べます。この現象は“海洋プラスチック問題”と呼ばれ、世界で注目されています。実際に、とあるセンターでジンベイザメが急に餌を食べなくなり、数日後に死亡してしまいました。そのあと、死因を解明するために解剖調査を行うと、胃の中から長さ十三センチメートルのプラスチック製のくしが見つかりました。飲み込んでしまい、出血や胃を傷つける原因となっていたようです。このように、私たちが普段使うものが、生き物たちにとっては、脅威となるいこともあるのです。

この事例や、私が経験したことをふまえて私が考えたゴミ問題への対策は、

一、 ゴミをなるべく減らし、一つのものを大切にすること。

二、 プラスチックの利用回数を減らしていくこと。

三、マイボトルを持ち歩くこと。

です。特に三については前述したように、飲み残しの缶が減ることにつながります。マイボトルとは、水筒のことです。

私たちの快適な生活のいっぽうで、生き物たちが苦しんでいるかもしれない。海洋プラスチック問題は、そっとわたしたちに警鐘を鳴らしているのかもしれません。